論文審査の結果の要旨

氏名：堀　　智　志
専攻分野の名称：博士（医学）
論文題名：向精神薬の過量服薬患者に対する臨床学的な特徴と危険因子
審査委員：（主 査）　教授　長　尾　　建
　　（副 査）　教授　平　山　篤　志　　教授　内　山　　真
　　教授　岩　﨑　賢　一

我が国の救急車による病院救急搬送件数は 2013 年、517 万 8862 人であった。
急性中毒は急病・交通事故・一般負傷を除くその他の一つに属する。このその他の傷病者 65 万 8591 人のうち、3 次救急に搬送された件数は 14 万 8860 人(21.3%)を占めていた。本論文は、急性中毒のうち重症と判断された 3 次救急患者に対する観察研究であった。対象は日本大学医学部附属板橋病院救命救急センターに搬送された患者のうち、向精神薬の①抗不安薬・睡眠薬（ベンゾジアゼピンとバルビツレート）、②抗精神病薬、③抗うつ薬、④気分安定薬のいずれかの 1 種類以上を含む薬物過量服薬患者 302 例とした。そして、服用薬物・臨床像・合併症・希死念慮などを解析した臨床研究であった。
薬物過量服薬の組み合わせは全 33 通りで、287 例(95.0%)がベンゾジアゼピンを服用していた。
Ⅰ）気管挿管は 74 例（24.5%）に施行。多変量解析では気管挿管に関連した因子は、収容時の徐脈(調整オッズ比, 3.8)、 頻脈(調整オッズ比, 5.5)、頻呼吸(調整オッズ比, 3.7.)、低体温(調整オッズ比, 4.9)、高 $PaCO_2$ 血症(調整オッズ比, 15.1)、抗精神病薬服用(調整オッズ比, 2.3)およびバルビツレート服用(調整オッズ比, 6.5)であった。
Ⅱ）救命救急センター平均滞在日数は 3.4 日で、4 日以上滞在症例は 83 例（27.5%）。滞在日数 4 日以上に関連した因子は、高体温(調整オッズ比, 4.2)、高 $PaCO_2$ 血症(調整オッズ比, 3.8)、バルビツレート服用（調整オッズ比, 2.2)および希死念慮(調整オッズ比, 7.2)であった。
Ⅲ）合併症は、誤嚥性肺炎が 48 例（15.9%）、頻脈が 77 例（25.5%）、徐脈が 25 例（8.3%）、低血圧が 16 例（5.3%）、意識障害が 86 例（28.5%）であった。誤嚥性肺炎に関連した服薬薬物は、抗精神病薬（調整オッズ比, 2.7）とバルビツレート（調整オッズ比：11.8）。頻脈に関連した服薬薬物は、抗精神病薬（調整オッズ比, 2.3）とバルビツレート（調整オッズ比：4.0）。意識障害に関連した服薬薬物は、バルビツレート（調整オッズ比, 7.0）であった。
以上より、多種類の向精神薬を過量服薬した患者において、抗精神病薬は、頻脈と誤嚥性肺炎の併発を助長、バルビツレートは、意識障害・頻脈・誤嚥性肺炎の併発を助長させたことより、救急処置の注意点であるとした。また、希死念慮は入院期間を延長させたことより、精神科専門医の診療が必要とした。
本研究は、多種類の向精神薬過量服薬した急性中毒の救急・集中治療診療指針に寄与する論文であると考える。
よって本論文は，博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以　　上

平成２６年２月１９日